

台湾歴史と文化の旅

参加11名、カナダトレッキング"同行のNさん
中国東北の手のトさん、最高峰8957のYさんは
孝文市をされていた方で、士別から参加のTさん
が孝文子と判り 期待と不安の入り混った
スタートでしたが 子孫の孝文「博愛」に負け
ず劣らずの助け合いで 楽しく 5日間を過ごす
ことが出来ました。

1日目

4時国際空港より 4時間半のフライトで
台北桃園空港へ。今年になってから台湾、
沖縄周辺は 低気圧が停滞し、この日も
「のんちゃん雲にのる」(50年以上前の映画)
の気持ちで過ごす。

空港から迎えるバスに乗り ガイドの案内を
聴きながら夕食会場へ。「今日の両替は3,400
元、いつもは2700元です。円高で得だね」と
言われ封筒の中身を確認し 1万円を渡す。

食後 夜猫族
になりたくて全員
士林夜市へ。大陸
の遠いのはサリ
の串焼の様な下物
が豊富だった。
ことかな。



2日目

国際貿易港 基隆を経て九份へ。九份の
語源が面白い。もともとQ戸しか住んでいなか
った山間集落。10km離れた基隆へ村の
人が交替で買出しに行き 毎回Qセットだった
ので「九人分」が九份になったようだ。地図
をみると近くに「十分」という駅名があった。

年代で調べたら 1895年下関条約に

基づいて台湾が清朝から日本へ割譲され
1945年までの50年間 日本の植民地になっ
ている。九份近くで 砂金が発見され 日本人
により 金鉱が整備されたようだ。急峻な
山肌に住居がへばりつき 海から吹きつける
風も強そうで 厳しい土地だったと思う。

ゴールドラッシュ
に沸いていた時代
歓楽街だった店の
「九分茶語」で九份
料理に舌づつみ。



他のツアー客は先を急ぐが 私達は階上へ
すすみ、小径の急な石段を登り降りする人を
眺めながら お茶を楽しむ。

金鉱では日本統治期の木造建築に手
を加え展示されていた。当時の生活が伝わる
雰囲気があったと思う。特に昭和天皇が
皇太子の頃 急ごしらえした和風邸の裏庭
に造られていた プール練習場に驚き。

結局 視察中止
で 訪台してから
たのだから 随分
無駄なことをした
と思う。1923年
のこと。



町の全景と海を眺めたつもりになって雨
にむせぶ九份にお別れし 瑞芳駅へ向う。
待合室では 日本語案内のおじさんと目が
合い話しているうちに 懐から俵を取り



嬉しそうに大声で
読み始めた。日
本の観光客が届
いた宝物だと言
っていた。

別れやたいのか

プラットホーム(月台)まできてくれたので一緒に記念写真。やっぱり台湾は親日家が多いんだ。

瑞芳駅から花蓮へ急行列車の旅。急行なのに各駅停車。切符に印字されている時刻が15分早い下車に個人旅行ならバニッシュしてでしょう。

3時間半の車内はとて寒く沖縄より南の島とは思えない。時計の針は18時。アミ族のショーを鑑賞後夕食なので花蓮駅前で青豆とピーナツ粉入りのモクを2個配給され早速ほうばる。ピーナツ粉は不思議なモクだったので翌日包み方を見学に行った程だ。私は上手く食べる事が出来たが、これは「粉南」したらいい。「粉のアン」は芸術作品です。



アミ族のショーは民族衣装も華やかで躍動あふれる意味ある踊りを見せてくれたが、収穫の喜びはうす、きね、ぶるで表現。日本ととても似ていました。

遅い夕食は広東料理。今私の台湾やれ料理との違いは... 解らなくなってきた。

3日目

「ニイタカヤマニ/ボレ」暗号が台湾最高峰の玉山(3952m)とは知らなかった。台湾島の中心部は険しい山々が連なっている。東部の景勝地太魯閣(タロコ)峽谷はすべて大理石。



蒋介石が飛展の遅れている東から西側への幹通路を計画。大陸から連れてきた兵隊を動員し、人が削ったというから凄いとはいえようが無い。



タロコ峽谷の奇石に値のおる大理石は結びつかずかったが工場見学で目か眩む。研磨

して初めてわかる石の価値。山頂にとってはたまらない程の宝の山だったろう。

花蓮駅前でヒマワリの種とわさびピーナツの黒ゴマ菓子を買った。今来た道を北上。羅東駅へ向う。

日本統治時代政府機関があった記念館に立ち寄り建築物や庭園、歴代高官の資料等見学。台湾の若者達は資料館で学ぶ日本に対してどの様に考えているのだろうか。

次に訪問した宜蘭国立伝統芸術中心は伊勢のおかげ横丁や時代村の雰囲気でも奇麗なつくり。若者達や家族連れが店を覗き楽しんでいた。

甘味店で「ミニトマト餡」を見つけた時は感激。トマトのグジュ、餡のカリカリが口の中で混ざり合う食感はお



像以上に嬉しかった。台湾はさとうきびの産地。沖縄とよく似ているのに黒砂糖系の菓子が目当たらない。そのかわり付加価値をつけた石砂糖菓子が多いいと思う。

園内の展示館は ミニ故宮博物院と
言はれるだけあって 絵画、織物、大理石
彫刻は見応えあり 得した気分。

本日の宿は 山合いに位置する 礁溪
温泉。水着無しは良しとして 浴槽は深
く、うたせ湯、水圧マッサージ等 日本^の比
にあらず。「台湾は金と死火山です」と
ガイドは教えてくれたが、源泉は？

旧正月のこの時期 雪景色と温泉
と食を求め 多くの観光客が来訪するこ
とに納得です。

4日目

高速道を利用し台北へ。原住民博物
館では丁寧な説明を受け、印象に残っ
たのは 首飾族、石のスレートで造られた
象、土の壺、言葉がわかれば 映像も
見たかった。



以前 パリで開催された第1回万博に、日
本が出品したのが 台湾の高砂族と知っ
て理解出来ないでいた。

ガイドの説明によると 山岳9民族を
総称して 高砂族というらしい。戦時中、
酒好きの アミ族が カフ、タイゲンという 180
トもある 大男がいた。生まれた時から素
足で軍靴をはくことが出来ない位、足

そのものが靴のような感じらしい。

日本軍が 南方へ戦線を拡大できたの
は 素足で行動、地形や 動植物に明ら
い高砂族の道案内が あったからこそと語
っていた。出品なんぞ 申請ないと思う。



私にとっての今
回の旅のハイライト
故宮博物院へ。
2時間と短く期
待薄だったが、イ
ヤホンからガイドの

声が届くので 主な作品の案内を聴きなが
ら 辺りの小作品も見ることが出来て満足。

ガイドは 75万点、本は 65万点、当館資
料は 67万点とまちまちだが いづれにしま
も歴代皇帝の宝物。ガイドによると清王
朝が倒れ 溥儀が 紫禁城を追われ
た時から 宝物の旅が始まり、戦火を
のかれながら 南京、重慶、上海、台中、台
北と運ばれ 特に重慶の 18年間は保管
に苦心したようだ。

もし宝物が大陸から台湾へ運ばれて
いなかったら、文化大革命で破壊されたり、
世界中に散逸していたかも知れない。

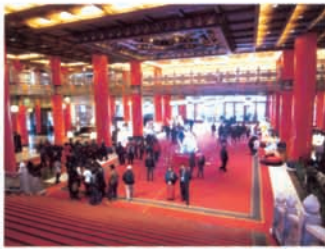
蒋介石、先見の明に拍手!!

旧正月前なので いつもより 来館者も少ない
らしく、必見の 翠玉白菜と肉形石は じっくり
観賞でき 良かったと思う。



初め寄る大型土産店でパイナップル菓子と干し山椒、添乗員 お振めの薬草石鹸(育毛促進)を購入 台湾のお金を金で使います。

昼食は蒋介石と宋美齡の居るで、夫の死後 美齡が経営していた 圓山大飯店の



飲茶料理。毎日の昼 飲んでいた お酒は全員休み お茶ばかり飲んだ。食事後 ロビーを

見に行ったら あまりの豪華さに 驚いて目を張る。

2.28 和平公園や總統府周辺を散歩。台湾の霞ヶ関と言われる 官方街で 道路幅が広い。2.28 事件は 本省人(台湾)と外省人(大陸)の対立がきっかけで 白色テロが 頻発。あいにく記念館は改装中で 見学できなかったが、ガイドに不評の記念碑や テロに巻き込まれて亡くなった方々の写真が公園内に展示されていた。子ども達はリスへのエサやりに果命。



台湾点心料理が最後の夕食。食事前に 1 時程 施氏地時代を知る お年寄りの話を聞いた。1926 年生まれの ショウ錦文さん(日本名 西村文男) 17 歳で志願、インパール作戦に加わり村々を攻撃、大変な戦いで水の補給も絶え、泥水を飲んだことが原因で 赤痢、マラリアに患い戦友の手助けもあって投降。戦々とした中で 軍音放送は ガンボジアのプンペンで聞き終戦を知った様です。

お話しの前に「教育に関する勅語」や「カイロ宣言の真相」を資料として渡され理解できない部分もあったが、「戦争は仕方がなかった」と言われたから「今だ日本政府からの謝罪も保証もない」と日本人兵士と差別されていることへのいかりが伝わり 申請なく思った。

今は弟さんが 2.28 事件で銃殺され 26 歳の若さで亡くなったこと もある歴史を伝えるボランティア活動をしているそうです。「台湾人生」の本の一部に ショウさんのことも描かれている様なので読むつもり。



「完食のツアーは初めてです。」と添乗員に驚かれる位 皆さんはよく食べよく学びよく歩きました。私は自分への褒美に 90 分のマッサージで疲れをとる 至福のひととき 大満足と感謝です。

最終日は 現地ガイドの 筒さんについて。終戦時 10 歳位だから 日本の教育を受けていたこともあり とても日本人的。たじろれが得意で最後の挨拶も 謝謝(シェイシェイ) までよかったが「皆さんとお別れして、さいせいします」に大爆笑。機知に富みよく書物を読んでいる様子で 言葉の豊かな説明だったと感

じました。予定がガイドの急病で変更されたとの事。これも何かの縁でしょう。



2011.1.19 ~ 22

